

上智大、一般入試で英語4技能を評価へ 「将来も必要」

増谷文生 2018年12月11日20時24分

上智大は11日、2021年春の新入生から、すべての一般入試で英語の「読む・聞く・話す・書く」の4技能を評価すると発表した。藤村正之副学長（高大連携担当）は英語の4技能を必須とする理由について「受験のために英語を勉強しがちな高校生に対し、将来も4技能は必要になるというメッセージを込めた」と述べた。

同大は、20年度から始まる大学入学共通テストを活用する入試も始める。これまでは大学入試センター試験を利用してこなかったが、「地方の優秀な生徒を獲得したい」と方針を変える。共通テストでは英語の4技能を評価するため、民間試験を使う。

これまで同大で英語4技能を評価していた入試は、同大と英検協会が開発した「TEAP」での一定の成績を出願要件とする方式だけだった。今後はこの方式を拡大するほか、共通テストの成績のみで受験できる方式と、共通テストの成績に加え、各学部学科による試験を課す方式を新設する。各学部学科の試験は1、2科目を想定し、記述式問題も含める。

同大はTEAP以外にどの民間試験を認めるのか、来年3月までに決めるという。（増谷文生）

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.